

## 第16回広陵町地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日 時：平成29年6月9日（水）15：30～16：30

場 所：広陵町役場3階大会議室

出席者：山村会長、東委員、笹井委員、大藪委員、米田委員（代理：中井様）、折原委員、西岡委員、霜永委員、福寫委員、山口委員、後藤委員（代理：米田様）、吾妻委員、吉崎委員、藤井委員、吉田委員、吉田委員

欠席者：山野委員

### 1 開会進行（事務局）

### 2 会長あいさつ

みなさんこんにちは。お忙しい中、第16回広陵町地域公共交通活性化協議会に参加いただき、お礼申し上げます。平成28年10月から広陵元気号の本格運行を開始してから一定の成果を収めておりますが、定着に至っておりません。今後は、PRを含め、利用者を増やす手立てを考えなければいけません。また、定時・定路線の運行に加えてデマンド交通の要望も多く、コスト比較も必要だと考えます。交通弱者の皆様のために、どのような公共交通が良いのかを検討することが課題となっています。本日もさまざまな意見をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

### 3 議題

#### （1）平成28年度歳入歳出決算について

##### 【事務局説明】

資料1の説明

##### 【質疑応答】

なし。

#### （2）地域内フィーダー系統確保維持計画について

##### 【事務局説明】

資料2、3、4、5の説明

##### 【質疑応答】

###### ○委員

西部支線は奈良交通の路線バスと重複して運行しているが、どのような役割分担をしているのか。

###### ○事務局

西部支線は、公共施設や旧村地区へのアクセス強化を図っている。

奈良交通の路線バスは、駅へのアクセスがメインとなっている路線バスである。

○委員

今後、利用実績を延ばしていくためにも、その部分の役割分担を主眼に入れた改善が必要である。

○会長

有償運行を開始して乗車人員は伸びていると考えて良いのか。どのように判断したら良いか。

○事務局

区間によっては、伸びている区間もあるが伸びていない区間もある。どの区間にも共通することであるが、気候により乗車人員は変わってくる。どうしても寒い時期や雨の日の利用は少ない。

○会長

その他意見はございませんか。地域内フィーダー系統確保維持計画について、承認していただくということによろしいですか。

では、承認とさせていただきます。

#### 4 その他

○委員

高齢者の免許返納がなかなか進まない。免許返納のインセンティブは考えてないのか。

○事務局

高齢者への免許自主返納者に対しては今年度中にどのように対策をするかを考える。

○委員

広陵元気号は、一部の時間帯で空気を運んでおり、デマンド交通の方が費用面で安いのではとよく言われるが、見え方の違いで、デマンド交通も利用者がいない場合は待機をしており、費用は変わらないと思う。

当日、広陵元気号の利用をした。たくさんの方が利用されていて嬉しかった。

○委員

元気号の利用者に聞いてみると、真美ヶ丘地区からは公共施設へのアクセスに使っている人が多いように感じる。ただ、目的地まで時間がかかりすぎたり、行きが良くても帰りが不便だという声もあるみたいだ。データを収集して今後を活用してもらいたい。

○会長

たくさんのお意見をありがとうございます。今後とも公共交通維持のためご提案をよろしくお願いいたします。

○事務局

次回の会議は、1月頃に開催する予定です。

○会長

本日は、お忙しい中、ありがとうございました。